

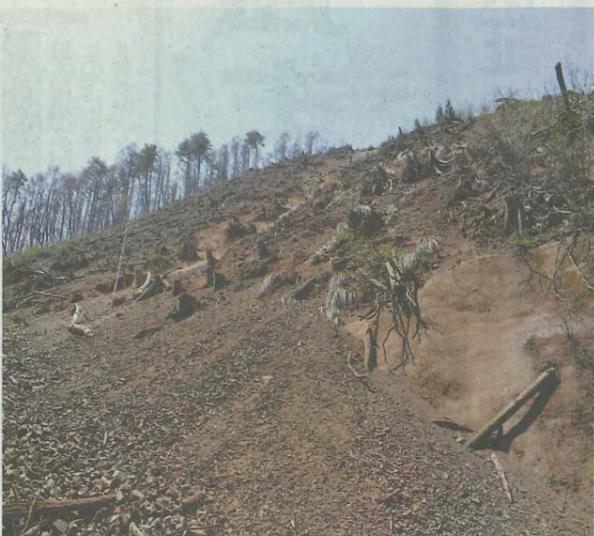
山肌さらす国有林

全国の国有林で最長50年間、数百社の伐採・販売権を民間業者に与える国有林野管理経営法改正案が国会で審議されている。現行ルールによるわずかりの伐採地ですら、再造林がはかどらず、山肌をさらしていった。政府は伐採後に森林を再生させると説明するが、本当に可能なのか。



根沼田森林管理署(沼田市)によると、スギやカラマツなどが生えるこの山の伐採は、小規模区画の伐採を民間業者に委託する現行ルールに基づき、2011年冬に入札にかけられた。地元業者が590万円で落札し、8・7割を皆伐した。

「ミズバシヨウが群生する「尾瀬ヶ原」の玄関口として知られる群馬県沼田市利根町。集落を抜け、林道を「キ」ほど進むと「砂利の降る山」がある。樹木をすべて切って山を丸裸にする皆伐が行われた国有林だ。植え直し(再造林)がうまくいかず、強風が吹くと小石や土が急斜面を転がり落ちる。利根町の国有林を管轄する林野庁関東森林管理局利



皆伐された国有林。再造林に着手している気配はない。皆伐地(右側)から落ちてきたとみられる切り株や土砂が林道をふさいでいた。利根町。寺田剛撮影

群馬 伐採後の現場は

森林管理局(前橋市)の職員は、再造林が進まない理由についてこう弁解する。土砂崩れが今も続く山だが、「再造林していないとも言えない」とする。苗木を植えた「実績」は残っているため、「造林はしている」という認識だ。ならば、いつになれば元の状態になるのか。同管理局の職員に尋ねると、悔しそうに「再造林に失敗した山だ。皆伐に向かない山だった」と言った。林野庁は17年、全国の国有林のうち、樹齢約50年を迎えた人工林を中心に925万立方メートルを伐採した。直径30センチ、15センチの丸太に換算すると800万本規模だ。約43%が皆伐で、再造林できないリスクが残る。特に



かつて日本の林業は、戦後復興や高度経済成長期の大規模な人工造林が進んだ。全てが人力という厳しい労働条件の中、急傾斜地にも苗木を植え、群馬の林業関係者は「当時の山村住民は「スギを育ててハワイ旅行に行こう」と本気で思っていた」と回想する。

巨額債務改善見えず

建設需要で活況を呈し、天然林の伐採跡地にスギなどの大規模な人工造林が進んだ。全てが人力という厳しい労働条件の中、急傾斜地にも苗木を植え、群馬の林業関係者は「当時の山村住民は「スギを育ててハワイ旅行に行こう」と本気で思っていた」と回想する。しかしその後の木材の輸入自由化と円高が大きな誤算だった。スギの木材価格はピークの1980年から3分の1に低落し、同年に約15万人いた林業従事者も15年には4・5万人に減少した。時を同じくして国有林経営の失敗も露呈した。木材収入で人件費や事業費をまかなおうとした政府の特別会計は、価格の低迷で経営が悪化。政府は98年に累積債務3・8兆円のうち2・8兆円を一般会計に入れ、「国民全体の財布」から返済を始めた。専門家は「林野行政の借金の一部「帳消し」にする代わり、防災や水源の保全など、森の公益的機能を重視する方針に改めた」と話す。

改正法案消えぬ疑念

23日から始まった改正案を巡る参院農林水産委員会の審議で、政府側は新たな伐採制度の下でも「確実に再造林される」「国が責任を持つ」と繰り返した。ただ、現在「1カ所あたり数社規模の伐採区域が改正案では数百社と飛躍的に拡大。最長50年に及ぶ伐採後の未来予測は「机上の空論」にもなっていない。さらに伐採と再造林を別々に委託する現行ルールに比べ、伐採業者に再造林を申し入れるという改正案のわかりにくさから、森林